

日清戦争に使用された朝鮮語会話書

—その特徴と日本語の様相—

成 琬 珂

1. はじめに

明治期朝鮮語会話書は、文化の受け入れのための西洋の会話書とは違い、主に社会情勢や政治的状况によって出版目的も変わってきた。明治10年代と20年代の前半までは、日本と朝鮮、両国の貿易や外交のためのものであった。しかし、日清戦争が始まる明治27年からは、戦争にただちに活用できる軍人用の会話書が主となる¹⁾。形式の面でも、日朝会話書から日清朝会話書へ、外交・貿易のためのものから戦争への活用のためのものへ、ハングルと片仮名による表記から片仮名のみの表記へとその内容、表記などの変遷が認められる²⁾。

本稿では、近代語資料としての活用のための、朝鮮語会話書の検討作業の一環として、日清戦争への活用のために出版された朝鮮語会話書を特に取り上げて考察し、その特徴とこれらに表れた日本語について述べる。

2. 日清戦争と朝鮮語会話書

成(2008b)で考察したように、朝鮮語会話書は日清戦争の前後である明治25年から明治28年の間に多数出版されている³⁾。戦争が始まった明治27年(1894)7月には、商武学校や近衛歩兵第一旅団などから『实用朝鮮語 正編』・『朝鮮俗語早学』・『兵要朝鮮語』が、宣戦報告をした8月には、『新撰朝鮮会話』・『従軍必携朝鮮独案内』・『速成独学 朝鮮日本会話篇』・『日韓会話』が出版される。『従軍必携朝鮮独案内』の自叙に「聊カ従軍人士ノ实用ニ便セント欲ス」とあり、本書が軍人の実用の便宜を供するものを目的としていることを明らかにしている。

また、同年9月には、日本軍の中国大陸へ進出に合わせて『独学速成 日韓清会話』・『日清韓三国会話』・『日清韓三国対照会話篇』・『日清韓対話便覧』・『旅行必用 日韓清対話自在』のように日本語・中国語・朝鮮語の3ヶ国語対訳の会話書が多数出版される⁴⁾。

多くの朝鮮語会話書の序などには当時の情勢やその出版目的が詳しく書き記されているのでここに転記する。

「宣戦ノ大詔此ニ煥発シ、日清ノ間砲煙彈雨相接セリ。此時ニ方リ苟モ日本帝國臣民タル者ハ清韓ノ言語ニ通曉シ、以テ予メ時ニ処スルノ準備ナカル可ラス」
（『独学速成日韓清会話』緒言）

「本書ハ我軍人及ヒ発行諸士ノ便宜ヲ計リ朝鮮八道府、州、郡、県、ヨリシテ軍人用語及ヒ日用会話其他雑語等詳細ニ記述セシ者ナレバ軍人及ビ発行諸士ノ本書ヲ誦読スルアレバ日清韓ノ談話ニ其用ヲ弁シ得ベシ」
（『日清韓三国会話』凡例）

「本書は朝鮮及び支那の内地を往来する人のために彼地に於て通用する所の日常必要の言語文句を集めたるものなり」
（『旅行必用日韓清対話自在』凡例）

これら、日清戦争への活用を目的として出版された会話書は、『实用朝鮮語正編』・『従軍必携 朝鮮独案内』・『朝鮮語独案内 全』・『日清韓三国通語』の凡例や序に記しているように、急遽出版に至ったのがほとんどである。

「本書ハ急遽編纂セシヲ以テ順序ヲ正スノ暇ナシ看者之ヲ諒セヨ」
「修飾校訂の暇なし故に魯魚頂倒深く咎むる勿れ」
「本書ハ将来益々朝鮮語ノ必要アルニ迫ラレ浅学ヲモ省ミス急遽編纂セシヲ以テ固ヨリ完全ナラズ聊カ朝鮮語未知者ヲ裨補シ以テ国家ニ報ゼンコトヲ願フノ微衷ナルノミ他日尚ホ其不完全ヲ補ヒ其誤謬ノ如キモ又当サニ訂正ヲ加ヘテ謝セントス看者姑ク之ヲ諒セヨ」
「日清韓三国の通語の必需日一日より急なり余喜んで此書を作る」

『日清韓対話便覧』の場合は、日本が清に対しての宣戦布告である「詔勅」までも附されており、出版目的が専ら日清戦争への活用であることを端的に表している。翌年の明治 28 年（1895）3 月に戦争が合意で終わるまでに、『朝鮮通語独案内』・『朝鮮語学独案内』・『清韓三国通語』・『日清韓語独稽古』のような、戦争への活用のための会話書は引き続き出版される。『朝鮮語学独案内』の緒言には、「本書編纂ノ意ハ第一、出征ノ軍人ニ便シ、第二、貿易ノ商人ヲ利スルニアリ故ニ用語ハ勉メテ平易簡單ヲ主として且ツ朝鮮語未知者ガ師ニ就カズシテ独リ学ビ得ベキ様副詞、形容詞ノ如キモノモータ之

ヲ載セ頗ブル心ヲ用キタリ故ニ名ヅケテ朝鮮語学独案内ト称セリ」とある。また『日清韓三国通語』の序にも、「我軍連戦連勝すでに鴨緑江を越え、九連城難なく陥り、鳳凰城亦將に我占領に帰せり。猶進んでは奉天を陥き、直ちに彼乃王都北京を衝き、その城頭に旭章旗の翻を見ること一瞬間にあらんのみ。然る時は清の四百余州は我が往来すべき地となるや必せり。日清韓三国の通語の必需日一日より急なり。余喜んで此書を作る」と記してあり、当時の情勢やその出版目的が窺える。

3. 日清戦争への活用のための朝鮮語会話書の特徴

3. 1. 形態の特徴

これら軍人用の会話書の特徴としては、独学のためのものが主流をなし、学習内容の難易度も低いと言える²⁵⁾。これらの形態的な特徴に、携帯しやすく（いわゆるポケット版）、頁数が少ない点、ハングルの文字の不採用などがあげられる。

題名	頁数	大きさ
朝鮮国海上用語集	12p	14cm
実用朝鮮語 正編	56p	13cm
朝鮮俗語早学	42p	14cm
兵要朝鮮語	67p	12cm
新撰朝鮮会話	162p	15cm
従軍必携 朝鮮独案内	21p	13cm
速成独学 朝鮮日本会話篇	62p	16cm
日韓会話	256p	13cm
独習速成 日韓清会話	50p	13cm
日清韓三国会話	139p, 49p	17cm
日清韓三国対照会話篇	99p	16cm
日清韓対話便覧	35p	13cm
旅行必用 日韓清対話自在	127p	13cm
朝鮮通語独案内	8p	18cm
朝鮮語学独案内	204p	16cm
日清韓三国通語	118p	13cm
日清韓語独稽古	8p	17cm

<表> 日清戦争への活用のための朝鮮語会話書の頁数と大きさ

<表>でみるように、大きさは横 15cm 以下の袖珍判でいわゆる小型本、ポケット本と呼ばれるようなものが多い⁶⁾。頁数も 100 ページを超えるものは、『新撰朝鮮会話』・『日韓会話』・『日清韓三国会話』・『旅行必用日韓清対話自在』・『朝鮮語学独案内』・『日清韓三国通語』の 6 点に過ぎない。少ないものは 10 ページ程度の分量のものも存する。

『従軍必携朝鮮独案内』（凡例）には、「此書固より従軍人士の懐中用便ぶ供せんとす故を以て記事略図ともに成るべく簡易を主として唯た其大要を示明するのみ韓語の如きに至りては殊に然りとす」と携帯用として作ったため簡易なものになったと記している。編著者は先駆的意味を意識していたかとは別に、この大きさや分量は軍人が常時持参し、いつでも出して活用できる利点があったのではなかろうか。

これらの戦争への活用のため朝鮮語会話書のもう一つの特徴は、朝鮮語会話書であるのにもかかわらず、文字であるハングル（諺文）の表記がなされていないものが多いということである。上の会話書の中でハングルが示されているのは『日韓会話』と朝鮮語学独案内の 2 点のみで、時間的制約から文字よりは、取りあえずの戦地で必要な言語や言い方を音で覚えさせ、必要最低限の意思伝達さえできればいいという考え方が背景にあったと推察される。

3. 2. 朝鮮語会話書における特有の表記と句読点

『兵要朝鮮語』および『日韓会話』・『朝鮮語学独案内』には、「カキクケコ」と「ガギグゲゴ」の中間音として「カ° キ° ク° ケ° コ°」を、「ツ° ツ°」の中間音として「ツ°」という表記をするなど、日本にはない朝鮮語の発音の新たな日本語表記を工夫している。

『日韓会話』の緒言に「諺字ハ其上下ノ影響及口調ノ抑揚ニ依リ本音ヲ失ヒ又ハ長短緩急ノ差ヲ生ス故ニ傍訓ハ以テ直チニ基本音ト認ムヘカラス」「傍訓に「カ° キ° ク° ケ° コ°」アルハ「カキクケコ」ト「ガギグゲゴ」トノ間音「ツ°」ハ羅馬字ニテ TU 或ハ DU ト同一ノ発音ナリ元来本邦ノ仮名ハ以テ悉ク彼国ノ音ヲ現ハス能ハス故ニ今之ヲ仮造シ以テ発音ノ便ニ供ス」と、原音に近い発音としての新たな表記を作っているという。

次いで、明治前期の朝鮮語会話書における句読点について調べてみる。明治前期の会話書には読点は付けられているが、句点は付けられていない。また、読点に「、」が用いられた場合と「。」が用いられた場合がある。

会話書には日本語・朝鮮語両方に句読点を付ける場合、両方とも句読点をつけていないもの、そして次の用例のように朝鮮語のカタカナ表記のみに句点を付け⁷⁾、日本語には付けていない場合もある。ちなみに、日本語に句読点をつけて朝鮮語には付けてい

ない場合は見当たらない。

○左様デスカ私モ矢張ソウデス クロンハーヲ、ナト、ドハン、クロケ、サングカ
クハヨツソ (『新撰朝鮮會話』 p.52)

○今年ハ平安道ニ御出ニナリマセンカ クムニヨヌン ピョーカ°ンドアンカー
シーヨ (『日韓會話』 p.17)

○ちんせんは、いくらか サクチェヌン、オルマニヤ

(『従軍必携朝鮮独案内』 p.19)

○火輪船ハ。イツ頃。来ルト申シマスカ ハーロンソン。ランチエーチュム。ラン
タ、ハーナーヨ (『速成独学朝鮮日本會話篇』 p.34)

『速成独学朝鮮日本會話篇』(凡例)に、「書中朝鮮語及日本語ニ「。」句読ヲ用ヒタルハ一語宛ニ離シテ其訳語ノ了解シ易キ為ニス又朝鮮語中「、」句読ヲ附シタルハ連語ニシテ誦読シ難キ所ヲ読ミ易カラシメ為ナリ」と句読点をつけた理由について説いている。朝鮮語會話書の日本語における句読点は明治 10 年代には句読点が全く付いてなかったのが、20 年代に入り読点だけを付けるようになる。ただ、會話書における読点は形態素・単語などといった文法的な概念による原則はなく、分りやすいところで用いられている。つまり、句読点の採用により読みやすく、朝鮮語や日本語の意味がわかりやすくすることにより、短期間に学習効果の向上を狙ったものと推察される。

3. 3. 會話の特徴

こられの戦争への活用のための會話書には、内容の面から、①命令・禁止・許可・確認の表現の多用、②平易簡略な言葉、③軍人が現地で必要とする言葉や軍隊に関連した會話、軍人の士気を盛り上げる會話の掲載という特徴がある。

①命令・禁止・許可・確認表現の多用

『實用朝鮮語 正編』に、「本書編纂ノ意ハ吾儕軍人ノ軍務執行ヲ補助スルニアリ本書中ノ訳語ハ命令詞多キニ居ル上流者ニ向テ之ヲ使用スル時ハ失礼ニ涉ラザル様注意ヲ要ス」(凡例)と述べているように、戦争への活用のための會話書には次のような命令表現が多いため、目上の人などには適さず、かえって失礼を犯す恐れがあると注意を促している。

- 後^{うしろ} に向^むけ ヲーロツヘンヘラ (『實用朝鮮語正編』 p.49)
- 我^{われ} に 渡^{わた}せ ナイコイ、チューオラ (『兵要朝鮮語』 p.19)
- 我^{ワレ} ト一^コ所^ソニ来^キイ カツチカー、ちや、ニヤルタラヲナラ
(『日清韓對話便覽』 p.25)

また、これらの会話書には、禁止、許可、確認の表現も多用されている。大陸に進出をするために朝鮮に渡航するようになった日本の軍人には、生存、軍事物資を調達のために、命令、脅迫、確認、禁止のごく短い文章が必須であったようで、下記のような用例が多い。

- たわけを、言うな ホンマル、マルラ (『従軍必携朝鮮独案内』 p.14)
- 騎兵ハ。沢山。居リシカ クイビョーグン。マーニー。イツソ
(『日清韓三国会話』 p.99)
- 降参ヲユルス ハングボクハーヲ (『日清韓三国対照会话篇』 p.61)
- 騷^{サワ}グト斬^キルゾ チャークナン、チルハーミヨン、ポーピリチョー、チョーネ、サラミー、インナ (『日清韓對話便覽』 p.25)
- 彼処ニ。支那ノ。伏兵ハ。居ラヌカ チョウクイ。チュグク、ポクビョーグン。
インヌーニヤア (『朝鮮語学独案内』 p.144)

『朝鮮国海上用語集』・『實用朝鮮語 正編』・『朝鮮俗語早学』・『兵要朝鮮語』・『日清韓對話便覽』・『朝鮮通語独案内』・『日清韓語独稽古』には、丁寧な表現は全く用いられていない。『兵要朝鮮語』の凡例に、「本書は兵用を主とせるを以つて。儘ま粗俗に渉るの語あり。是れ尋常会話と其撰を異にする所以なり」と記し、兵士などが用いる言葉が多いため、荒っぽく、下品な言葉づかいも含まれており、日常の言い方とは異なる面があると述べている。また、[M 20-8]『従軍必携 朝鮮独案内』にも、「朝鮮語中二三応答を除く外故さらに賤語を用ゐて敬語を用ゐず蓋し専ら戦地実用を主として樽俎応酬を後にする」(凡例)と、敬語を用いず、専ら戦地で活用できることを目的として作られたことを明らかにしている。

②平易簡略な言葉

朝鮮での活用を目的とするため、簡単に覚えやすい会話文が盛り込まれている。『朝鮮語学独案内』のその緒言に「本書編纂ノ意ハ第一、出征ノ軍人ニ便シ第二、貿易ノ商人ヲ利スルニアリ故ニ用語ハ勉メテ平易簡單ヲ主トシ」と簡潔で平易な会話にを載せた

と記している。戦争での即座活用でき、基本的意思疎通に重点をおいたものといえる。

- 冷い ソンソンハラ (『朝鮮俗語早学』 p.12)
- 味が。大層。塩カライ マーシー。メーウー。スウコプタ
(『速成独学朝鮮日本会話篇』 p.45)
- ^{ハナハ ヨハ}甚ダ弱イ シムイヤクホン (『独習速成日韓清会話』 p.38)
- 酒アルカ スルイスソ (『日清韓対話便覧』 p.32)
- 名はなに イロムモイラ (『朝鮮通語独案内』 p.6)
- 御兄弟ハ御^{オイクタリ}幾人です メーツ、ヘングテーヨ (『日清韓三国通語』 p.90)

③軍人に必要とされた表現

『日韓会話』の緒言に、「本書纂述ノ目的ハ朝鮮語未知ノ軍人ヲ利スルニ在リ。故ニ用語ハ務メテ平易簡略ヲ主トシ、成ルベク軍隊必要ノ言語ヲ撰録セリ」と、その対象は軍人で、軍隊に必要な言葉を選んだことを明らかにしている。『實用朝鮮語正編』にも、「支那及朝鮮語統編ハ正編ニ於テ遺漏セシ必要語ヲ編纂シ及發音ヲ便スル爲訓点ヲ付シタル者ナリ改正地圖ハ専ラ明瞭ト保存トニ注意シ軍人ノ實用ニ充タシムル爲メ出版セリ」と軍人に利用されることを目的としている。その凡例には、「本書編纂ノ意ハ吾儕軍人ノ軍務執行ヲ補助スルニアリ」と記しており、本書がもっぱら軍人の軍務執行のために編纂されたことが窺える。

- 槍持テ戦フ軍士モアリマスカ チヤク° カーチコサーウムハヌンクーンサトイ
ツソ (『日韓会話』 p.144)
- 支那ノ兵士ハ。皆。何処ニ。進テ。行キマシタ リユグククピヨグサーヌンター。
チヨウクイ。ヌーロー。カツスムネータ (『日清韓三国会話』 p.79)
- ^{ニグ}逃ルト ^{テツボウ}鉄 ^{ウツ}砲デ射ゾ ターラナーミヨン チュング、ノツチー
(『日清韓対話便覧』 p.26)
- 其砲台に大砲があるか ク、ポーダイエー、タイワングーカー、インナ
(『旅行必用日韓清対話自在』 p.61)

軍人が戦地で武器や資源の調達や徴兵、敵兵の威嚇、手伝いの要請など、様々な場面を想定している。また、次のように、情勢に関する話題、日本軍人の心構えや士気を鼓舞させるための用例なども取り上げられている。

- 支那が非常にまけたさうです チェングキー、タイダニー、チェッタプデーヨ

(『従軍必携 朝鮮独案内』 p.21)

○国ノ為メ。戦場ニ於テ。死トテ。何ノ恨トイタシマセウカ

(『速成独学 朝鮮日本会話篇』 p.60)

○日本ノ兵士ハ。至敵ニシテ。質朴デス イルボンピョグサーヌン。チイラムハー
コー。チルパーキーヨ (『日清韓三国会話』 p.77)

その他、次のように朝鮮語を直訳した日本語、朝鮮の人物に関する話題、韓国式漢字熟語なども見受けられ、朝鮮や朝鮮語の知識がない人には、相当困難な学習内容ではなかったであろうかと推定されるものも含まれている。

○其言葉ハ。誠ニ。野俗デス クー、マルスームン。チュグマル。ヤーソク、ホー
ワーヨ (『速成独学 朝鮮日本会話篇』 p.57)

○白骨。難忘デゴザル ペクコル。ナンマグ、イロセータ

(『速成独学 朝鮮日本会話篇』 p.62)

○問：額字は誰が書きましたか ソンパン、クルシカー、ヌイ、クルシーヨ

答：大院君の字です タイウワングーヌイ、クルシーヨ

(『旅行必用 日韓清対話自在』 p.28)

4. 日本語の様相

4. 1. 語彙

これらの会話書には、「大日本(だいにほん)・仏蘭(ふつこく)・独逸(どいつ)・英国(えいこく)・露国(ろこく)・伊国(いこく)・米国(べいこく)・清国(しんこく)・朝鮮(ていせん)」(『日清韓三国会話』)のように、当時の国名、「祖父(そふ)・祖母(そぼ)・叔父(しくふ)・叔母(しくぼ)・親(おや)・母(は)・父(ち)・長男(ちやうなん)・長女(ちやうぢよ)・娘(むすめ)・姉(あね)・弟(おと)・妹(いもと)」¹⁰ (『日清韓三国会話』)といった親族呼称、その他に、「髪(かみげ)」¹¹・茄子(なすび)¹² (『従軍必携朝鮮独案内』)のように、当時の言い方がわかる語彙、また戦争への活用を目的としているため、「兵営(へいえい)・軍艦(ぐんかん)・兵隊(へいたい)・大砲(たいほう)・小銃(てつぱう)・弾丸(たま)・火薬(フヤク)・太刀(たち)・陸軍(りくぐん)・海軍(かいぐん)・剣(けん)・槍(やり)・矢(や)」と軍隊関連用語が共通的に収録されている。

『従軍必携朝鮮独案内』の「ごきかぶり・蠅(はひ)」¹³・生鮑(あをび)・南瓜(とうなす)¹⁴」といった語彙からは、出版地や編著者により偏差が見受けられる。

人称代名詞には一人称に「我(ワレ)나・私(ワタクシ)・／我等(ワレラ)우리들・私共(ワタシドモ)우리」が二人称に「汝(アンタ)나・老兄(キミ)노형・御前(オマヘ)네・当身(タウシン)당신・貴下(アナタ)당신・貴君(キクン)귀군・貴殿(ソナタ)자네・尊君(アナタ)존군・貴君(アナタ)・／貴公(アナタ)공・貴公ガタ(アナタガタ) 공네／汝等(アンタガタ) 네들・御前方(オマヘガタ) 네희들・貴下ガタ(アナタガタ)당신네・君等(キミラ)공・들」(『朝鮮語学独案内』) が用いられている。朝鮮語対訳からみると、「アナタ」は「공 コーン」、
「ソナタ」は「자네 ツァーネー」になっており、「アナタ」が敬意の強い語として上位者に対して用いられ、「ソナタ」が同等、もしくは下位者に対して用いられている¹⁶。

これらの会話書には「あの奴 クーノム・この奴 イーノム・この畜生 イノマー」(『従軍必携朝鮮独案内』) といった卑罵語もみうけられる¹⁷。

表記面では「蠅(はい)¹⁸・御名前(おなまい)・御前(おまい)」(『日清韓三国通語』) とエのイ表記がされており、また「うま(馬)」を「むま」と表記している会話書(『日清韓三国会話』²⁰、『日清韓三国通語』) と「うま」と表記している会話書(『独習速成日韓清会話』、『日清韓三国対照会話篇』) がある。

これらの会話書には振り仮名が振られているものが多数あり、「○功名(コウメイ)ヲ遂(ト)ゲマシタ(p.12)／○問屋(トヒヤ)ニ荷物(ニモツ)ガ集ツテアリマス(p.12)／○三味線(サミセン)ヲ善(ヨ)クヒキマス(p.6)」(『独習速成日韓清会話』) のように、当時の漢語の読み方がわかる資料として活用できる。

4. 2. 命令

本資料群には命令には基本的に四段動詞は命令形(已然形)で、上一段動詞と下一段動詞はヨで表す。ところが、四段動詞に命令形+ヨ、そして上一段動詞はロ、下一段動詞にロ・イ・語幹のみの用例も混在している。

○大 袍たいほの形かたちは何どの様やうでありしか話はなせ タイボウモーヤーギーオツトンカイ
ルーラ (『実用朝鮮語』 p.35)

○成ナル丈ダケ。早ハヤク。飯メシヲ。焚ダケ トイトイロク、オーソー、パプ、チョーラ
(『朝鮮語学独案内』 p.158)

○水ヲ汲ネンデ来レヨ ムルトオナラ (『独習速成日韓清会話』 p.33)

○汝ナンヂハ。双ソウ眼ガン鏡キョウヲ。持モツテ。適ミ地チヲ。視ミヨ ソーヌン、サーカンキョーク。ル、
カーチョー、チョクチ、ポーシーヨ (『朝鮮語学独案内』 p.170)

○牛ギョウニク肉ニク。ト。葱ネギヲ。煮ニヨ ソーコーキ、ハコ、パーウル、サムラ
(『朝鮮語学独案内』 p.190)

○内に居る チベイツソ (『実用朝鮮語』 p.50)

○腹帯ヲシツカリシメヨ パイツ・イル、タンダーニ チャルローラ
(『日韓会話』 p.149)

○油をつげ キールム、プラーラ (『旅行必用日韓清対話自在』 p.89)

○彼処ニ舟ヲツケロ チョー、クイ、パイ、タイ、ヨーラー
(『日清韓対話便覧』 p.26)

○牛肉一斤クレイ ソーコーキハンゲンチューオ (『日韓会話』 p.241¹²¹)

サ変動詞とカ変動詞は各々「セヨ」「コイ」を用いているが、「セイ」「コヨ」の例もまれにみられる。

シナ マフリモノ キ ハヤ ホバク
○清国ノ。間 謀ガ。来マシタカラ。早く。捕縛セヨ チョングク、タムゾーク
ーニ、ワツスニ、オーソー、キヨルパクハンラ (『朝鮮語学独案内』 p.172)

○御客ハ豚肉ヲ御上リニナランカラ牛肉ラウマク調理セヨ クローミョン、トヤー
ヂコーキル、チャグマン、ハヤーラ (『日韓会話』 p.208)

○御前御 酌をしる ヤイ、スル、デョラ (『日清韓三国通語』 p.96)

コムギコ アス モツ コ
○小麦粉も。アルナラバ。明日。共ニ。持テ。来イ ミルカルト、イツスミョ
ン、ナイイル、アーオーロー、カチョー、オナラ (『朝鮮語学独案内』 p.127)

○二千ノ兵士ヲ。呼テ。来ヨ フルロー。ヲナーラ (『日清韓三国会話』 p.72)

4. 3. 文末 (断定)

断定を表す文末には「デス」が用いられているが、『独習速成日韓清会話』のように「デス」28例、「デアル」が41例で「デアル」が優勢である会話書もある。「ダ」は『実用朝鮮語正編』1例、『日韓会話』7例、『独習速成日韓清会話』4例、『日清韓三国会話』1例、『日清韓三国対照会話』6例、『旅行必用日韓清対話自在』2例、『日清韓語独稽古』1例で多いとはいいいにくい。「ジャ」は『従軍必携朝鮮独案内』・『旅行必用日韓清対話自在』に各々3例ずつのみである。「デゴザル」の用例は『日清韓三国会話』・『朝鮮語学独案内』・『日清韓三国通語』に各々4例、12例、4例、そして『日清韓対話便覧』・『旅行必用日韓清対話自在』に1例しか見受けられない。

○長独轎一つと歩轎二つじや デヤグドツキョー、ハンチャイ、ハコポーキョ、ゾ
ーツチ (『旅行必用日韓清対話自在』 p.78)

- 天地開闢以後無キ事ダ チヨンデーカイビョクイーフーロオブヌンニーリター
(『日韓会話』 p.37)
- 清国ノ軍士ヲ。ジキニ。破ル事ハタシカダ パール。パンハンタ。イーリーカー
ヨーニヨ (『日清韓三国会話』 p.80)
- アノ。道ハ。近イデスケレ・。大 層。險阻デス チョー、キーリー、カツカ
ーオナー、マイウー、ホムハオ (『朝鮮語学独案内』 p.146)
- 号令ガ。寛カナニヨリ。兵隊ガ。不規律デス ホーリョク・イ。ラムスクチアニ
ホニ。クンビョグイ。ヘイウイホラー (『日清韓三国会話』 p.77)
- 彼者ハ老人デアアルガナゼニ笠ヲ被リマセンカ クノームンノーイーニンデーウ
オイカツスルアンスオ (『日韓会話』 p.132)
- ソレハ。定価通りデアリマス クコスン、チヨンク・カ、ガー、イツソ
(『朝鮮語学独案内』 p.195)
- 其品ハ。真ニ。上 等 品 デ御座イマス クヌン、チャム、ホーピーミー、
オルシダ (『朝鮮語学独案内』 p.197)

また、次に示すように動詞に「デス」が接続する用例も見受けられる。

- 所謂。日本固有ノ。日本魂ガ。アルデス ソーウイ。イルボンコーユーホン。イ
ルボンマーウーミー。インヌンデーヨ (『日清韓三国会話』 p.82)
- 一当百ニ当ルデス イルタグペーキーヨ。(『日清韓三国会話』 p.80)
- 止メタデス (『独習速成日韓清会話』 p.10)

5. 日露戦争に使用された会話書

明治 20 年代の日清戦争時には、朝鮮語と中国語、日本語の 3 カ国語が同時に収録されて
いたものが、明治 30 年代の日露戦争(明治 37 年 2 月～明治 38 年 9 月)時にロシア語や
満州語の会話に加えられ、『日露清韓会話自在法』・『対譯日露清韓會話軍人商人必携』
・『袖珍実用満韓土語案内』・『日露清韓会話早まなび』・『日露清韓会話自在』・『日韓清
英露五国単語会話篇』といった、4 カ国語ないしは 5 カ国語のものが登場する。『対訳
日露清韓会話 軍人商人必携』には、「三ヶ国以上のものは、絶て無いのである。然る
に今回の時局は、名は日露の衝突といふが、其戦争の地は、寧ろ清韓に於て開かれるの
である、して見ると、この時局について、最も必要なのは、日露清韓四国の会話と、其
地図とであることは、今更いふまでもない」という述べてあり、これらは明らかに大陸
進出を念頭に置いて編纂していることが見てとれる。

『実用袖満韓土語案内』には「本書ハ主トシテ満韓両地ニ於ケル軍隊行動ノ使ニ資セ

シガ為メ特ニ軍事的着眼ヲ以テ編纂セリ、故ニ其目的ニ合スルモノト誤ムルノミヲ蒐集
連結シ彼ノ麗語敬辭ノ如キハ一切之ヲ省ケリ」(凡例)と記しており、日清戦争への活
用のために出版された会話書同様、軍隊行動に重点を置いた言い方を掲出していること
を明らかにしている。

○何処に魯国兵は居るか チョクピョーギオーテーイツソ

(『対訳日露清韓会話 軍人商人必携』斥候²³⁾)

○皆持つて来い モトカチヨオナラ (『日露清韓会話早まなび』p.170)

○相 当の賃 銭ヲ与フルゾ サングタングハンサークルチュルラ

(『日露清韓会話自在』p.66)

一方、日清戦争への活用を目的とした会話書には常体の言い方が多いのに対して、こ
れらには、常体を含め、次のように「デス・マス」の敬体や「オ～ナサイ」「オ～ニナ
ル」などの丁寧な言い方が増加する。

○日本は島国で土地は狭くとも人の精神が違います (『日露清韓会話自在法』p.29)

○海軍は英国が第一でしやう ヘイクーン。イヨンギー。チェーイーリーヲ

(『日露清韓会話自在法』p.27)

○御這入りナサイ (『日韓清英露五国単語会話篇』p.28)

○何処にお出でになりかすか オーテロカーオ

(『対訳日露清韓会話軍人商人必携』旅行)

○貴君は何処にお 住 なされますか オテケイシヨ

(『日露清韓会話早まなび』p.126)

○金子ト品 物デ御座イマス (『日露清韓会話自在』p.52)

6. おわりに

以上、明治20年代の日清戦争への活用のために編纂された朝鮮語会話書の特徴と
日本語について概観した。

明治20年代の日清戦争への活用を目的として出版された会話書の特徴としては、
朝鮮語会話書特有の表記や句読点が工夫されている。また、形態の面では、①軍人
の携帯のために作られたこと(いわゆるポケット版)、②分量が少ないものが多く、内容
の面では、①命令・禁止・許可・確認表現の使用 ②平易簡略な言葉 ③軍人に必
要な言い方(物資や食料調達など)の使用、が挙げられる。その言語は、敬語を用い

ず、荒っぽく、下品な言葉づかひも含まれており、日常の言い方とは異なる面もある。

日清戦争への活用の会話書が日清朝3カ国語の収録していたが、明治30年代の日露戦争への活用のための朝鮮語会話書には、ロシア語や満州語が加えられ4カ国語ないしは5カ国語の収録するようになる。内容の面では日清戦争への活用のための会話書と類似しているが、その言語には丁寧な言い方が増加する傾向を見せる。

日清戦争への活用のための朝鮮語会話書は、時期的に早い語法の用例や膨大なデータが得られる資料とはいいいくいが、他の資料とは異なる明確な特徴のある資料として、当時の近代日本語の様相を窺える資料として看過できないものであろう。

[注]

- *1 筆者が調査した明治20年代の朝鮮語会話書は21点であるが、そのうち16点が戦争への活用のためのものである。
- *2 朝鮮語会話書の題名にも、こういった推移が反映され、明治10年代の「韓」「善隣」「交隣」が、明治20年代に入り日清戦争を契機に「朝鮮」「兵用」「従軍」といった語が用いられる。
- *3 櫻井義之(1964)によると、明治の初年より日韓併合にいたる約半世紀にわたる間に出版された文献資料が600余冊に上るなど、当時朝鮮に対する日本の関心がかなり高かったことがわかる。内容から見ると、経済・残業部門が圧倒的に多く、事情一般・政治・歴史・地誌・語学の順序を示し、当時の日本が大陸に何を求めたいかが窺える。
- *4 以下に考察対象とす明治20年代における日清戦争への活用を目的として出版された朝鮮語会話書の一覧を示す。題名、出版年月、編著者、出版地、出版社、所蔵場所の順で記す。①朝鮮国海上用語集 1894(明治27.6) 田村宮太編 東京 水交社 国会 ②実用朝鮮語 正編 1894(明治27.7) 中島謙吉編 東京 尚武学校編集部 国会 ③朝鮮俗語早学 1894(明治27.7) 松栄玄訓堂 金沢 三余堂 国会 ④兵要朝鮮語 1894(明治27.7) 近衛歩兵第一旅団編 東京 明法堂 国会 ⑤新撰朝鮮会話 1894(明治27.8) 洪爽鉉著 東京 博文館 国会 ⑥従軍必携 朝鮮独案内 1894(明治27.8) 栗林次彦著 熊本 国会 ⑦速成独学 朝鮮日本会話篇 1894(明治27.8) 阪井武堂校閲 東京 叢書閣 国会 ⑧日韓会話 1894(明治27.8) 参謀本部編 東京 国会・東経大・大府中央・阪大⑨独習速成 日韓清会話 1894(明治27.9) 吉野佐之助 大阪 明昇堂 国会 ⑩日清韓三国会話 1894(明治27.9) 坂井鈞五郎著・多田祖閣 東京 松栄堂 国会 ⑪日清韓三国対照会話篇 1894(明治27.9) 松本仁吉著 大阪 中村鍾美堂 国会 ⑫日清韓対話便覧 1894(明治27.9) 田口文治著 仙台 田口文治 国会 ⑬旅行必用 日韓清対話自在 1894(明治27.9) 太刀川吉次郎 東京 鳳林館 国会 ⑭朝鮮通語独案内 1894(明治27.11) 池田勘四郎著 香川 池田勘四郎 国会 ⑮日清韓三国通語 1894(明治27.12) 天淵著 東京 薫志堂 国会 ⑯日清韓語独稽古 1895(明治28.3) 漢学散人著 東京 宇都宮民太郎 国会
- *5 『日清韓三国対照会話篇』の凡例に「本書載スル所ノ言語ハ現今尤モ必要ナル清韓両国語ヲ本那語

ニ対照シタモノニシテ初学独習ノ便ニ供センコトヲ期セリ」とある。

- *6 『従軍必携朝鮮独案内』に「此書固より従軍人士の懐中用便ぶ供せんとす故を以て記事略図ともに成るべく簡易を主として唯た(マ)其大要を示明するのみ韓語の如きに至りては殊に然りとす(凡例)と記してある。
- *7 朝鮮語はハングルとハングルの発音を片仮名で示しており、二通りの方法がある。ここでは、両方のどちらかに句読点を付けていれば、朝鮮語に句読点が付けられていると見なした。
- *8 雑誌「軍事界」(1902年)に「兵語としての口語及文章語に就て」によれば「兵語」とは「簡單明瞭」「勇壯活発」「教育上の方法が容易」であるべきだと述べたうえで、軍隊でも統一された文語、口語が要請されるという。つまり、命令が正確に伝わらないことには、戦闘もできないという趣旨であろう。
- *9 「。」は、本文中の日本語の一つの文章の区切りをわかりやすくするためだと著者の松岡馨は述べている。
- *10 『日清韓三国通語』・『日清韓三国対照会話』・『日清韓三国会話』には、「妹(イモト)・弟(ヲト)」とあり、『日清韓語独稽古』には「弟(おとうと)・妹(いもうと)」と表記されている。
- *11 『言海』に「かみ(名)|髪|〔上髪(カミゲ)上髪ノ略ナラムト云フ〕とある。
- *12 『言海』「なす(名) 茄子(ナスビ)茄子の略」
- *13 『言海』に「はへ(エ)へ(名)|蠅|訛シテハイ(後略)」とある。
- *14 『言海』カボチャ(名)|南瓜|(初メ Cambodia.(柬埔寨)ヨリ来ル)中略(東京ノ称)京都ニ、タウナスビ
- *15 友人に対する語という解説が付いている。
- *16 『従軍必携朝鮮独案内』にも「あなた コーン ・ソナタ ツアーネー」になっている。
- *17 当時身分社会制度があった朝鮮では上位者が下位者に普通に卑罵語を使っていたようである。
- *18 文明本節用集に「蠅 ハイ」とある。物類称呼に「蠅は関西にてはへ 関東にてはい」とある。
- *19 日国によると、「おまい」は千葉で用いられたという。
- *20 本書には「梅」は「うめ」と表記している。
- *21 ○牛肉一斤くれ ソーコーキハンゲンチューオ (『旅行必用日韓清対話自在』p.50)
- *22 本書には頁が付されていない。

[参考文献]

- 梶井陟(1978)「朝鮮語学習書の変遷」(『季刊三千里』第16号)
- (1984)「日本人の朝鮮語学習史—明治から日本の敗戦まで—」(『季刊三千里』第38号)
- 久保田優子(2005)『植民地朝鮮の日本語教育—日本語による「同化」教育の成立過程—』九州大学出版会
- 桜井隆(2005)「植民地教育史研究における言語の問題」(『植民地国家の国語と地理』) 皓星社
- 桜井義之(1956)「空迫繁勝の朝鮮語学書について—附朝鮮語学書目—」(『朝鮮学報』第9集)
- (1974)「日本人の朝鮮語学研究(一)～(二)」(『韓』第3巻第7号～第8号)

- 成玗珂 (2006) 『交隣須知』にみられる語法の変化」(『国語と国文学』第 83 卷 12 号)
—— (2007) 「近代日本語資料としての『日韓通話』」(『日本語学論集』第 3 号)
—— (2008a) 「近代日本語資料としての『日韓日新会話』」(『日本語学論集』第 4 号)
—— (2008b) 「[研究ノート] 日本語資料としての朝鮮語会話書 [明治前期]」(『日本語の研究』第 4 卷 2 号)
—— (2008c) 「明治期における会話書『独習新案日韓対話』」(『近代語研究』第 14 集) 武蔵野書院
浜田敦 (1970) 『朝鮮資料による日本語研究』岩波書店
山田寛人(2004) 『植民地朝鮮における朝鮮語奨励政策』不二出版

(ソン ユンア 大学院人文社会系研究科 博士課程)